



《NEWS》

お知らせ!

■現地説明会を行いました

今回誌面でも紹介している佐倉市太田長作遺跡（第2次）において昨年の12月6日に現地説明会を行いました。当日はすっきりとしない空模様でしたが、地域住民の方々はもとより多くの考古学ファンが大勢訪れ、熱心に調査員の説明を聞いていました。

なお、発掘調査は今年の1月中旬に終了し、調査の結果、縄文時代から奈良・平安時代の住居跡が28軒見つかった他、旧石器時代の石器も出土しました。

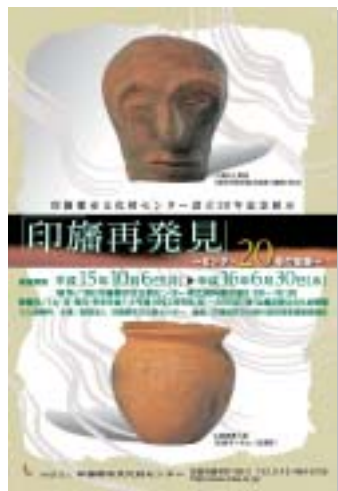


現地説明会

《ご案内》

■企画展 「印旛再発見」 展示替えのお知らせ

現在、(財)印旛郡市文化財センターではセンター設立20年を記念した企画展「印旛再発見」展を考古資料展示室において開催中ですが、平成16年2月16日(月)から展示内容の一部を変更して開催しております。成田市南羽鳥正福寺1号墳より出土したムササビ形埴輪などの形象埴輪を始め、佐倉市八木山ノ田遺跡の仏面墨書土器など過去に注目を浴びた遺物を多数展示しています。入館は無料ですので皆さんの来館をお待ちしております。なお、土日祝祭日は休館します。



開催中 『印旛再発見』



「印旛再発見」展の様子

《発掘中の遺跡》  
2月～3月

がんばってます!

＜成田市＞

西和泉和田遺跡（縄文時代・奈良時代）  
西和泉栗山遺跡（縄文時代・奈良時代）

＜佐倉市＞

白井屋敷跡遺跡（弥生、奈良・平安～近世）  
曲輪ノ内遺跡（縄文時代・近世）



西和泉和田遺跡調査風景

《室内作業》

こつちもやってます!

＜本部＞

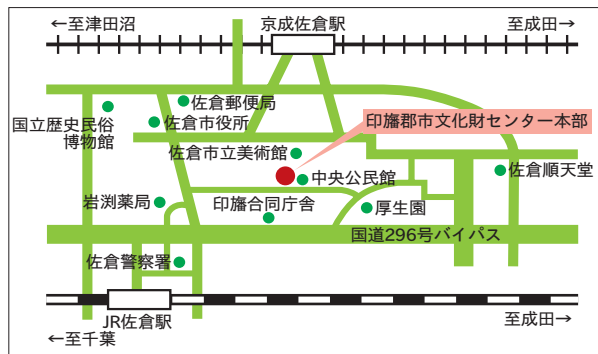
佐倉市錦木町198-3 TEL043-484-0133  
井野長割遺跡（第4次・第8次）（佐倉市、縄文時代）  
谷津田遺跡（四街道市、旧石器、縄文、中近世）  
前原No.2遺跡（四街道市 旧石器、縄文、中近世）  
鹿渡遺跡（第3次）（四街道市 旧石器、縄文、奈良・平安）  
天神台遺跡（第11地点）（印西市、弥生時代）

＜佐倉南統合調査室＞

佐倉市岩富町528-1 TEL043-498-0765  
井野長割遺跡（佐倉市、縄文時代）  
宮内井戸作遺跡（佐倉市、縄文時代）

《お知らせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 ☎ 043(484)0126(代) 043(485)9871 平成16年2月15日 http://www.inba.or.jp (日本語) http://www.inba.or.jp (英語)

FIELD BOOK



さくらし おおた ながさく いせき  
佐倉市太田長作遺跡  
(第2次)



20号住居

22号住居



↑ 太田長作遺跡全景

← 20・22号住居  
(22号住居…2度の建て替え住居)

おたながさくいせき  
太田長作遺跡は佐倉市太田字長作1147-3他に所在し、JR物井駅から東へ800m、印旛沼へそぐ鹿島川に向かって張り出した台地の縁辺部に位置します。平成9年に行われた第1次調査に引き続き2回目の調査となります。

今回の調査では、縄文時代の住居2軒（早期1軒、中期1軒）、縄文時代早期の炉穴（ファイヤーピット）31基、弥生時代の住居12軒（中期10軒、後期2軒）、古墳時代の住居12軒（前期5軒、中期1軒、後期6軒）、奈良時代の住居1軒、土坑100基あまり、溝3条などが検出されました。同一台地上には六崎大崎台遺跡、六崎貴舟台遺跡、寺崎向原遺跡、太田用替遺跡など弥生時代の集落が多く認められ、本遺跡もまた弥生時代中期が遺跡の中心となります。

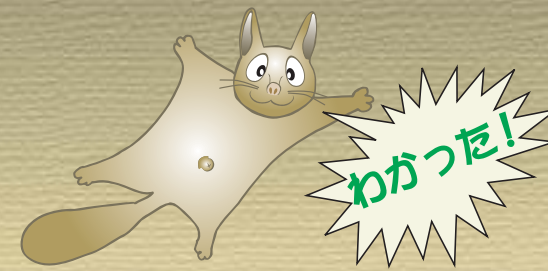
弥生時代中期の住居の中で最大の規模を持つ22号住居は、2度の建て替えが行われ、住居の規模は長軸約7.6m、約8.6m、約10mと徐々に規模を拡大しつつ建て替えています。

このように、弥生時代の集落には、長軸5m前後の一般的な住居とともに長軸10m前後の大型の住居が造られることがあります。大型の住居は有力者の住まいであったのか、住人が集まる共同集会所のような役割を持つものか、判断することは困難です。もし後者ならば、徐々に拡張された住居の規模は集落に住んでいた人間の増加を現しているのではないのでしょうか。また、新しい場所に移って建て替えることをしなかったことも、共同集会所の立地が固定されていたと考えることができるのではないのでしょうか。

このように発掘調査を行いながら、たった1軒の住居からムラの生活に思いをめぐらしてあれこれ考えることはとてもわくわくすることだとは思いませんか。

# 成田市 台方下平I遺跡

だい かた げ べ



台方下平I遺跡は、成田市<sup>だいかた</sup>台方に所在し、印旛沼に注ぐ江川の下流、標高35m程の細長い台地の上に立地しています。調査の結果、縄文時代から奈良・平安時代にかけての住居跡が240軒以上見つかりました。多くは古墳時代中期後半～奈良・平安時代（5世紀後半～9世紀）にかけて造られ、継続的に集落が営まれていました。

集落が作られ始めた5世紀後半の頃は、それまで住居にあった炉から新しく導入されたカマドへ移行していった時期です。まさに本遺跡でもその例に漏れず、炉からカマドへの過渡期の様相が、炉とカマドの併設した住居という形で現れています。

出土した遺物は、坏、甕、甔など日常生活に用いた土器が大半ですが、関東周辺で出土するのは珍しい古式須恵器が見つっています。本遺跡から見つかった古式須恵器は、現時点では5世紀後半を中心とするものと考えられます。

関東ではこの時期の須恵器窯はまだ見つかっていませんので、これらの古式須恵器は東海西部や畿内などから持ち込まれたものでしょう。

また、粘土を焼いて固めて作った錘（土錘）が見つっています。土錘とは、魚を捕る網につけられていたと考えられる漁労具の事です。当時の印旛沼は茨城県の霞ヶ浦とつながっており、「香取の海」と呼ばれる大きな内海を形成していました。古墳時代の人々は台地の下にまで広がっていた「香取の海」で漁をしていたのでしよう。

本遺跡と同じ台地にある成田ニュータウンの周辺には、古墳時代の前期から終末期にかけて大小116基の古墳が造られた公津原古墳群が広がっています。当時、この地域は印波郡に属していました。古墳群の中には印波郡の長官である国造のお墓と伝えられているものもあります。有力者達は、当時の政治の中心であった畿内やその周辺地域と関わりを持ち、カマドや古

式須恵器など当時の新しい技術の導入に一役買っていたと考えられます。

公津原古墳群はヤマト王権との深い結びつきを読み取れる重要な古墳群です。台方下平I遺跡はその築造に係わった拠点的な集落の一つであるということは想像に難くないでしょう。今回の調査によって、本遺跡に住んでいた人々がどのようなものを使ってどのように暮らしていたかを知る材料を見つけることができました。この材料をもとに調査・研究という光を当てて

いけば、ヤマト王権との係わり合いをさらに明らかにすることができるでしょう。そのような地道な調査・研究の積み重ねによって、古代史を書き換えるような新しい発見や事実が解明されていくのです。



カマドから出土した高坏



古式須恵器出土状況



出土した古式須恵器



台方下平I遺跡

公津原古墳群

遺跡の位置と公津原古墳群 S=1/50,000